
エチュード

隼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エチユード

【Nコード】

N2735Q

【作者名】

隼

【あらすじ】

俺には厄介で用途不明な能力がある。

それは、紙に書いた絵や文字が勝手に浮き上がって、何処かにいつてしまうという、変な能力だ。

そんな能力のおかげで俺は厄介な人種のヤツラとの出来事に巻き込まれていく、……そんな話である。

俺の能力は用途不明

突然ですが、言っておきたい。

俺には、人として少し外れた能力がある。

騒がしい教室の中、俺は一番後ろの校庭側の席で、今日も細々と生きる。

至ってずば抜けた取り柄も無く、むしろ落ちこぼれという無駄なレツテルを貼られた部類に入る。

俺は、ルーズリーフを一枚机上に起き、いつも使っているシャープペンシルを握る。

そして今日も、握ったシャープペンシルは震える。

……今日こそは、この能力が無くなっている事を願って。

「お前、今日の漢字のテストの勉強したか!？」

「はア？ やってる訳ねーじゃーん!！」

「漢字の勉強なんてしない感じ……ってか!？」

つまらないギャグを飛ばす、隣でたむろするクラスメイトなんて今となっては日常茶飯事。

俺がこうやって机に向かっていて皆からは根暗だと思われてる事だ
って日常茶飯事。

根暗だと思われてる且つ、童貞ムツリだと思われてる事だって、
に、日常……茶飯事。

「それよりもさあ、昨日のお笑い番組見たかよ!？」

「あー、見た見た! あれだろ、新人戦みたいなやつ!」

「お前らよくあんなの見れるなあ。つーか勉強しろよなっ!！」

「は？ お前が言える事じゃなくね!？」

「言えてる言えてるー!!」

そんな会話を他所に、誰の仲間の輪に入らず、俺は恐る恐るある文字を書いてみた。

書いた文字は、『現代文』。

今日の一限目の授業でやった科目だ。

だが、書いたまではない。

問題は、それからだ。

どう頑張っても、徐々に上に浮き上がる『現代文』の文字。

結局いつもどおり、シールを剥がすかのような自然さでルーズリーフから離れた。

それを恐る恐る、シャープペンシルを持っていない指で突っいてみる。

指を近づけた時、微量に発生する風で、凧ぐ文字。

それは、されるがまま風に飛ばされていく。

……………って、ヤバイ!!

「っ！！」

俺はその微量に発生した風で呆気なく飛ばされた『現代文』の文字を、シャープペンシルを投げ出して掌へと収めた。

机から乗り出してまで捕まえたかったから、俺は勿論、少しだけその場に沈黙を与えてしまった。

隣で騒いでいた奴等が訝しげに俺を見ているという事によろやく気づいた俺は、おどおどしながらも席へ着いた。

そう。

これが俺の、普通の人間にはないような能力。

何気なく書いた文字や絵が、気を抜けば紙から飛び出して宙に舞ってしまう。

そんな厄介で尚且つ、かなり用途に困る能力を、俺は持っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2735q/>

エチュード

2011年1月26日11時21分発行